

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 26 日 (2019.12.26)

【公開番号】特開 2018-100607 (P2018-100607A)

【公開日】平成 30 年 6 月 28 日 (2018.6.28)

【年通号数】公開・登録公報 2018-024

【出願番号】特願 2016-246087 (P2016-246087)

【国際特許分類】

F 0 4 F 5/44 (2006.01)

F 0 4 D 25/08 (2006.01)

F 0 4 F 5/16 (2006.01)

F 0 4 F 5/24 (2006.01)

F 0 4 F 5/46 (2006.01)

【F I】

F 0 4 F 5/44 B

F 0 4 D 25/08 3 0 2 E

F 0 4 F 5/16

F 0 4 F 5/24 A

F 0 4 F 5/46 A

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 15 日 (2019.11.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

筐体と、前記筐体の内部において送風部によって送風された空気を通す通風路と、前記筐体の側面から互いに間隔をもって放射状に延設した複数の柱状体と、を備えた送風装置において、

前記柱状体は、前記柱状体の内部において前記通風路に連通するダクトと、前記柱状体の底部において前記ダクトと連通した吹出口と、を備え、

複数の前記柱状体のうち一部の前記柱状体の前記吹出口から選択的に送風可能に構成されていることを特徴とする送風装置。

【請求項 2】

複数の前記柱状体のうち前記一部の前記柱状体の前記ダクトと前記通風路とを連通させる通風口と、前記一部の前記柱状体以外の他の前記柱状体の前記ダクトと前記通風路とを遮る遮蔽板とを備えた送風選択部を前記筐体内に配置したことを特徴とする請求項 1 に記載の送風装置。

【請求項 3】

前記送風選択部は、前記筐体内を回動することで、前記通風口と連通する前記柱状体の前記ダクトを可変することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の送風装置。

【請求項 4】

前記送風部は、前記筐体の内部において高圧空気を発生する羽根車と前記羽根車を駆動するモータとを備え、

前記筐体には、前記送風部に供給する空気を取込む吸込口が設けられていることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の送風装置。

【請求項 5】

請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の送風装置の前記吸込口に、空気浄化フィルタを備えたことを特徴とする空気清浄機能付送風装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

そして、この目的を達成するために、本発明は、筐体と、前記筐体の内部において送風部によって送風された空気を通す通風路と、筐体の側面から互いに間隔をもって放射状に延設した複数の柱状体と、を備えた送風装置において、柱状体は、柱状体の内部において通風路に連通するダクトと、柱状体の底部においてダクトと連通した吹出口と、を備え、複数の柱状体のうち一部の柱状体の前記吹出口から選択的に送風可能に構成されていることを特徴とする送風装置としたものであり、これにより所期の目的を達成するものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明に係る送風装置によれば、広範囲に均一な風速の気流を提供することを実現できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

本発明に係る送風装置は、送風部によって送風された空気を通す通風路を備えた筐体と、筐体の側面から互いに間隔をもって延設した複数の柱状体とを備えた送風装置において、柱状体は、柱状体の内部に通風路に連通するダクトと柱状体の底部にダクトと連通した吹出口とを備え、筐体から延設した複数の柱状体のうち一部の柱状体の前記吹出口から送風することを特徴とするものである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

また、本発明に係る送風装置は、筐体内に配置され、複数の柱状体のうち一部の柱状体のダクトと通風路とを連通させる通風口と、一部の柱状体以外の他の柱状体の前記ダクトと通風路とを遮る遮蔽板とを備えた送風選択部を筐体内に配置したことを特徴とするものである。これにより、送風する柱状体を制御することができ、送風範囲を制限することができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

また、本発明に係る送風装置は、送風選択部は、筐体内を回転することで通風口を回転させ、通風口と連通する柱状体のダクトが可変することを特徴とするものである。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

また、本発明に係る送風装置は、高圧空気を発生する羽根車と羽根車を駆動するモータとを備えた送風部が筐体内部に設けられ、送風部に供給する空気を取込む吸込口を筐体に設けたことを特徴とするものである。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

また、本発明に係る空気清浄機能付送風装置は、送風装置の吸込口に、空気浄化フィルタを備えたことを特徴とする空気清浄機能付送風装置とするものである。